

■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	トヨタカラー福岡 北九州店 新	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3 /5	   	ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.7 /5	   	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5	 	がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5	  	ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつう 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.3	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.2
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.5
躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS) + 内装材と設備が錯綜せず、容易に取り外し可能(S造) + 再利用できるユニット部材(フリーアクセス床)		・主要内装仕上材【工場】ケイ酸カルシウム板:10年 【物販】ビニールクロス貼:10年 ・主要な配管上位3種の、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.8	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.5	LR2/ 1.1 節水	スコア 4
LED照明、高効率設備の採用		節水コマ、省水型便器の採用(大便器CS230B)	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 1.03 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: 0.79 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %	

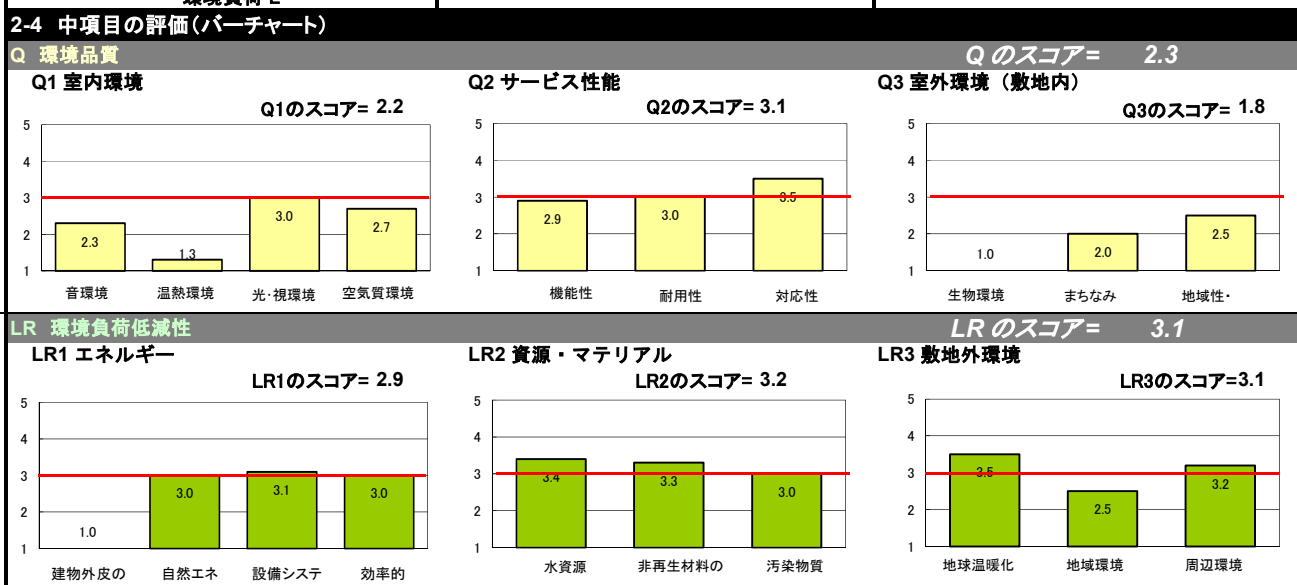
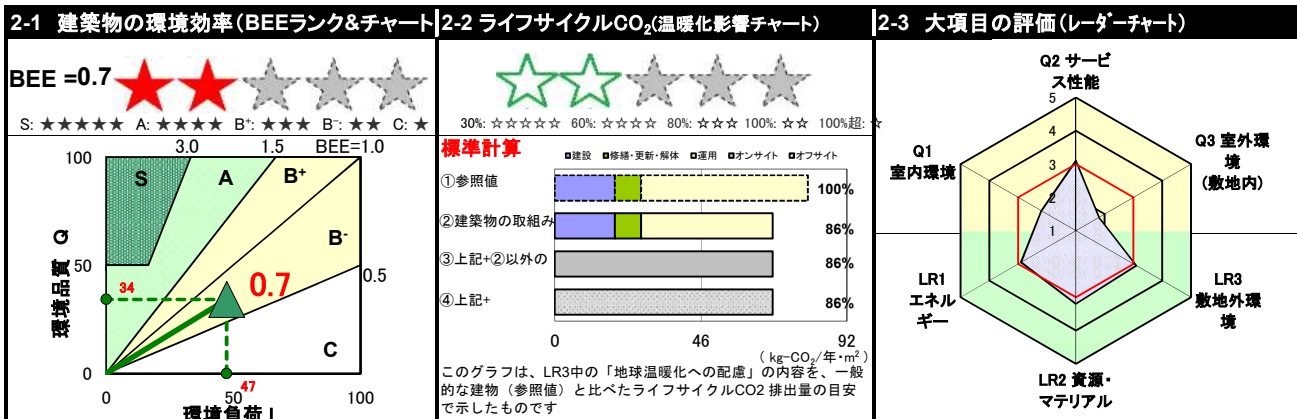
: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタカローラ福岡 北九州店 新築	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市小倉北区上到津3	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年7月2日
敷地面積	2,317 m ²	作成者	伊東 正太郎
建築面積	2,073 m ²	確認日	2018年7月3日
延床面積	8,256 m ²	確認者	上村 絢祐



3 設計上の配慮事項		
総合 お客様やスタッフが快適に過ごせる空間となるように、バリアフリーへの配慮やF☆☆☆☆建材の採用など、利用者の安全・健康・快適さを重視した計画としている。		その他 0
Q1 室内環境 ・深い庇によりショールーム内への直射日光を遮蔽し空調負荷の抑制を図っている。 ・内装建材にはF☆☆☆☆を採用し室内環境に配慮を行った。	Q2 サービス性能 ・新車展示場をショールームから連続した屋根でつなぐ空間とすることで、雨天時にお客様を濡れることなく案内できるようにしている。 ・事務室の床をOAフロアとすることで、将来のレイアウト	Q3 室外環境 (数地内) 周辺のまちなみと景観に配慮した立面形状・色彩計画としている。
LR1 エネルギー ・深い庇によりショールーム内への直射日光を遮蔽し空調負荷の抑制を図っている。 ・LED照明の採用によりエネルギー使用量の低減を図り、環境に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓や節水型便器の採用により、水資源保護の配慮を行った。	LR3 敷地外環境 前面道路が交差点に面する敷地条件のため、車輛の出入口をお客様用とスタッフ用で敷地内に2ヶ所分散配置することで、車輛の出入りにより渋滞とならないように配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
トヨタカローラ福岡 北九州店 新築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.3
Q1 室内環境					0.32		-	2.2
1 音環境				2.3	0.15		-	2.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-	
1.2 遮音				2.3	0.40		-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.68		-	
2 界壁遮音性能				1.0	0.32		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-	
1.3 吸音				1.0	0.20		-	
2 温熱環境				1.3	0.35		-	1.3
2.1 室温制御				1.7	0.50		-	
1 室温				1.0	0.40		-	
2 外皮性能				1.0	0.23		-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.37		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-	
2.3 空調方式				1.0	0.30		-	
3 光・視環境				3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.34		-	
1 昼光率				-	-		-	
2 方位別開口				-	-		-	
3 昼光利用設備				3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.24		-	
1 昼光制御				3.0	1.00		-	
3.3 照度				3.0	0.12		-	
3.4 照明制御				3.0	0.30		-	
4 空気質環境				2.7	0.25		-	2.7
4.1 発生源対策				3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質				3.0	1.00		-	
4.2 換気				2.0	0.30		-	
1 換気量				3.0	0.50		-	
2 自然換気性能				-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50		-	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30		-	3.1
1 機能性				2.9	0.40		-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ				1.9	0.40		-	
1 広さ・収納性				1.0	0.26		-	
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.26		-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.47		-	
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30		-	
1 広さ感・景観		【工場(整備士スタッフルーム)】3.0m 【物販】ショールーム平均:3.375m		5.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33		-	
3 内装計画		レベル4(3項目に該当)		4.0	0.33		-	
1.3 維持管理				3.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		③⑥SK⑤ゴミ置場⑦電源⑧高所管理作業⑩⑫PSの設置		4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔				2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:B 排水:B 給湯:D		5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3 電気設備				3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	【工場】【物販】平均階高:(6.25+5.95+5.00+4.70)/4=5.475m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	【工場】1階:0.10 【物販】1階:0.12	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	仮設スペース確保でき、更新・修繕時に建物機能を維持(室外機置場)	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.04	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.79	3.1	0.60	-	-	3.1
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	【工場】【物販】節水コマ、省水型便器の採用(大便器CS230B)	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	(LGS)+(S造)+(フリーアクセス床)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		【工場】【物販】LED照明、高効率設備の採用	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車スペース、管理車両駐車施設、車両の出入口2ヶ所分散配置	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策が「ライン」、広告物照明の扱いの全てを満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	